

山内地域生活支援協議体：さんない生活支えあいたい

- ◆構成員の役職など…区長、民生委員、福祉協力員、元市職員、ケアマネジャー、元PTA、劇団代表、共助組織事務局長、食材納入組合代表、元地域づくり協議会委員、婦人会、女性消防隊、JA職員、地域活動者など（15名）

～移動の不便を解消できるように～

座談会などに参加して地域の現状把握を行ったところ、買い物や交流活動に参加するための移動手段に困っている方がいる一方で、移動支援サービスを利用することで不便さを感じていない方もいました。便利なサービスや活動があっても、利用方法がわからない住民も多いことから、まずは、直接地域の交流会などへ訪問し、移動支援サービスの利用方法をわかりやすく伝える取り組みを行っています。



いきいきサロンなどの交流の場に出向いての情報提供

大雄地域生活支援協議体：大雄支えあいネット

- ◆構成員の役職など…民生委員、主任児童委員、福祉協力員、婦人会、老人クラブ、商工会女性部、いきいきサロン世話人、福祉施設職員、市職員など（17名）

～地域の交流機会が増えるように～

全世帯を対象としたアンケート調査の結果、近所付き合いが薄れつつあるので「気軽に集まれる交流の場がほしい」との意見が一番多くありました。この結果を踏まえ、まずは地域の座談会などに参加しながら既存の交流の場についての把握を行っています。なお、把握した交流の場やその取り組みが始まったきっかけなどはチラシにより周知し、参加促進と交流の場づくりにつながるよう進めています。



交流の場への参加促進などを目的としたチラシを作成して全戸配布

地域の“宝物”を活かした地域づくり

協議体の取り組みが始まってから約3年。地域づくりを進めるためにまずは地域の現状を知ろうと、情報交換や状況調査などを中心に行ってきました。その中で「交流の場がほしい」「移動手段に困っている」といった課題が全域に存在することを認識した一方で、あまり知られていない「交流」「つながり」「助けあい」の関係や活動も数多くあることがわかりました。こうした関係や活動は、**地域課題の克服に向けた取り組み**、また「**社会参加**」と「**支えあい**」を充実させる**基盤**となるものであり、**地域の“宝物”**です。協議体では、これからも地域の“宝物”の情報を把握して広く発信すると共に、みなさんと一緒に育みながら「**元気でいきいきと暮らせる地域づくり**」を進めて参ります。



地域の伝統や文化、日々のつながりや交流など地域の“宝物”の情報提供にご協力ください！

元気でいきいきと暮らせる地域づくりのために

～生活支援協議体の取り組み～

いくつになっても「元気でいたい」「生きがいを持っていたい」「住み慣れた地域で暮らし続けたい」そんな願いを持っている方も多いと思います。では、元気でいきいきと暮らせるためにはどのようなことが必要なのでしょうか？

まずは健康でいること

何をするにしても健康は大事。健康づくりには十分な栄養や運動以外にも、「**社会参加**」がとても大切であると言われています。外に出て仲間と楽しい時間を過ごせば身体が元気になるだけでなく、閉じこもりや孤立の予防、地域内の自然な見守りにもつながります。



◆例えば…

- ・町内のお花見会へ参加する
- ・友達とカラオケをする
- ・ご近所さんとのお茶っこのみ
- ・仲間とスポーツ交流 など



◆例えば…

- ・町内行事の誘い合い
- ・ゴミ出しのお手伝い
- ・一緒にお互いの家の雪寄せ
- ・食事のおすそわけ など

お互い様の関係も大事

地域のみなとつながりを持ち、生活のちょっとした困りごとがあっても、お互いに助けたり、助けてもらえる「**支えあい**」の関係も大事です。また、相手のために自分のできる範囲でお手伝いすることで、自身の生きがいや健康づくりにもつながります。

「社会参加」「支えあい」の取り組みを進めています

その他にも必要なことがいっぱいあると思いますが、まずは「**社会参加**」と「**支えあい**」の充実した地域づくりをめざした取り組みが始まっています。

この取り組みの中核を担うのは、各地域に設置された「生活支援協議体（協議体）」。地域住民をはじめ、様々な活動者や団体・機関、企業、行政などで構成される協議体では「生活支援コーディネーター」と呼ばれる担い手を中心に話し合いや情報交換などを行い、地域の状況や課題に応じてアイデアを出し合いながら、必要な取り組みを行っています。

次のページからは各地域の協議体の取り組みの一例についてご紹介します。（横手市社会福祉協議会では、横手市から受託してこの取り組みを進めています）



横手地域生活支援協議体：よこて支えあいネット

◆構成員の役職など…町内・自治会会長(元職含む)、主任児童委員、福祉協力員、いきいきサロン代表世話人、市職員、公民館職員、農事組合法人、婦人会、NPO、子育てサークルなど(13名)

～地域の「お宝」がどんどん広がるように～

地域で行われている交流活動や支え合い活動、また伝統文化など、キラリと輝く地域の「お宝」探し(情報収集)を行っています。

構成員が地域とのつながりを活かしながら「お宝」の把握を行っており、活動しているみなさんが誇りを持って取り組むことができるよう、また他の地域にも活動が広がるように、把握した「お宝」の情報をまとめたチラシを作成して周知しています。



地域に分かれての「お宝探し(情報交換など)」の様子

増田地域生活支援協議体：支えあいますだねっと

◆構成員の役職など…自治会長、共助組織代表、福祉施設職員、在宅保健師、市職員、商工会青年部など(12名)

～住民と地域の活動をつなげるために～

「気軽に集まれる場所が少ない」との声が聞かれる一方で、多くの方に参加してほしいと感じている居場所や活動が地域には多くありました。

そこで、趣味活動を行っている団体などをたくさん発掘し、住民と団体をつなげることで健康づくりやお互い様の支えあいにもつなげようと、地域局の1階に大型の「まっぷ」を設置して団体の活動状況などを掲示しています。



地域の情報を掲示した「支えあいますだまっぷ」

平鹿地域生活支援協議体：ひらか支え愛ねっと

◆構成員の役職など…町内会長、民生委員、福祉協力員、ボランティア活動者、いきいきサロン代表世話人、市職員、婦人会、地区会議、JAたすけあい組織、商工会女性部など(17名)

～みんながつながる居場所を広げるために～

「交流機会が減った」「気軽に通える居場所がない」などの課題を解決するために、モデル地区を設定し、実際に構成員が地域に出向いて交流の場づくりを進めています。

また、すでにある交流の場を紹介する模造紙を作成し、芸文祭などの地域住民が多く集まる行事に合わせて掲示しているほか、居場所づくりへの関心が高まるようにチラシによる広報活動も行っています。



交流の場をPRするための模造紙の作成

雄物川地域生活支援協議体：おもの川支えあいネット

◆構成員の役職など…民生委員、福祉協力員、医療関係者、元JA職員、元土地改良区職員、交流センター、地元企業、共助組織、地区会議など(18名)

～生活上の不便の解消に向けて～

買い物に行くための移動手段など、生活上の様々な不便を解消しようと、現在どのような活動が行われているのか、これから必要な活動は何かを把握するため情報交換やアンケート調査などを行っています。

なお、把握した活動などはチラシを作成して地域に配布したほか、住民が自分の出来ることを活かしてお互いに支えあえる仕組みづくりについて、地域と一緒に考えながら進めています。



地域の課題ごとに分かれての情報交換と解決に向けた検討

大森地域生活支援協議体：おもり支えあい協議体

◆構成員の役職など…町内・自治会会長、民生委員、地域活動者、育英会役員・事務局長、市職員、いきいきサロン代表世話人、地区交流センター運営委員など(14名)

～交流の輪が広がるように～

全世帯を対象としたアンケート調査や地域ごとの意見交換会を行ったところ、「交流する場」「買い物の支援」などを必要とする声が多く聞かれました。

そのため、生活を支援するきっかけが生まれる「交流の場」の拡大から取り組むこととし、まずは地域の情報収集を行いました。集めた情報は活用できる助成金などの情報と共にまとめてチラシを作成し、地域に配布しています。



地域の行事や交流会などをチラシで情報発信

十文字地域生活支援協議体：まめ☆だすか ささえあいネット十文字

◆構成員の役職など…PTA会長(元職含む)、社会福祉法人経営者、社協職員、市職員、地域活性化グループなど(17名)

～支えあいの意識を高めるために～

「支えあうことが当たり前」と思えるような地域となるよう、小学生向けの意識啓発授業を考案したほか、実際に構成員が学校に出向いて授業の講師も務めています。

また、住民を対象とした情報交換会の開催や地域イベントに合わせて周知活動を行うなど、みんなが地域の現状や将来を考える機会づくりに取り組んでいます。



支えあいの意識啓発を目的とした授業の様子